

4年連続！淡路島まつりに参加



▲半澤さんと魚住さん。
今年も魚住さんが「まとい」を持ちました。



▲夏の空気をみんなで感じながら踊ります。

沿道見学の方々の皆さん、お元気で！
無事に踊り終えられた方々、お元気で！
後、良きお元気で！
調子がいいお元気で！
この一年は、お元気で！
今年も参加させていただきます。
毎年大勢の方の参加を期待しています。
8月1日(土)、今年も島

淡路・ふくろう連とて

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

宮城の健常者の施設で
は学べないことをここで
たくさん学ぶことができ
て良かったです。
又、淡路島の阿波踊り
を経験させていただけで
楽しかったです。
この経験をたくさん思
いに伝えていきたいと思
います。
(野地)

仙台医療福祉専門学校
生と東北福祉大学生の
二人が8月1日、3日、
淡路ふくろうの郷にボラ
ンティアで来てくださ
いました。
お二人からいただいた
感想の一部をご紹介します
ていただきます。

受け、とても楽しく踊られ
ていました。毎年参加する
ことを心待ちにされてい
る方もいらっしゃるはず
今後ともご声援をよろし
くお願いします。
そして、今年もご協力し
てくださった地域交流会、
四国学院大学の学生さん
等、ありがとうございます
(介護：酒井)



▲一足先に到着した職員で記念写真を1枚撮りました。



▲みんなで楽しく踊りました。



▲手作りの「ふくろう団扇」

これまで訪れた福祉施設とのギャップに驚かされました。
職員と利用者のコミュニケーション、利用者同士の支え合
い、閉鎖的ばかりの施設がほとんどののに、見学の私までも
が気持ちが開放的になるくらいの雰囲気でした。
淡路ふくろう郷で過ごした事で視野が広がり、改めて必要
なものは何であり、私に出来ることは何なのかを考えるき
っかけをもらうことができました。

(佐々木)



▲ボランティアに来て下さった学生の皆さん

今年も夏の一大イベント「淡路島まつり」が終
わりました。8月末には昨年に引き続き「かかし
作り」を行います。入所者・職員・ボランティア
さん、みんなの力を合わせて、今年も個性豊か
で楽しい「かかし」を作ります！

☆島まつり・花火鑑賞☆

洲本実業高校のご好意で

きれいに見えるよ!



8月2日(日)「淡路島まつり」の花火大会を入所者さん28名、職員・ボランティアさん10名で洲本実業高校のグラウンドへ見に行きました。踊りと同じく、花火大会も4年連続の参加です。施設で夕食を食べたあと出発。午後8時、最初の花火が打ち上がりました。約1時

間、色鮮やかな光、豪快な音の響きを休むことなく楽しめました。

初めて参加の人もいらして、時折、拍手されたり、声を上げられたりと楽しんでいらつしやいました。

ろう者の方は花火の大きな音を身体で感じていらつしやいます。その感じた振動を近くに座っている方々と笑顔でお話しされていました。

帰ってきてから職員にずっと花火の感想を語ってくださいる方もいらして、今年もまた参加された皆さんに喜んでいただけたと思います、私も嬉しくなりました。

毎年快く場所を提供してくださる洲本実業高等学校の皆様、協力して下さい。

つたボランティアの皆様、ありがとうございます。また。

余談ですが、最近ではドラえもん顔の花火、ハート型の花火、魚のかたちの花火とユニークなものが多いところですね。

(介護…加野)



言うつう者の方も花火を楽しみました。

半澤啓子さん手話で民話語り



す。

日本全国で公演をされている半澤さんの表現をこんな間近で観ることができると、本当に私たちはラッキーだと思いました。

最後のお話「歌女房」は、テープに録音された音声の語りも、音楽もなく、静かに手話だけで進められたのですが、音がないことなんて全く気になりませんでした。

半澤さんの手話での民話の語りは、まるで舞台演劇を観ているかのような本当に素晴らしいものでした。

(事務・森岡)

学生さんの引率で来所されていた仙台医療福祉専門学校講師、半澤啓子さんが8月2日(日)、手話での民話の語りを披露してくださいました。約2時間、入所さんも職員も、ろうあ協会やサークルの方々も、みんなが半澤さんの豊かな表現・表情に引き込まれていました。語ってくださいました民話は全部で4つ、「子守り観音様」「飴屋の幽霊」「おばあちゃんが見えますか」「歌女房」です。半澤さんは手話による民話の語り部として活躍の一方、手話通訳士としても、とても有名な方で



郷土芸能、人形浄瑠璃を鑑賞

シヤァー!



本格的です。

人形浄瑠璃を初めて見る入所者さんもいらしたでしょう。みなさん、中学生の熱心な演技を食い入るようにつめていらっしやいました。

生徒さんたちはハキハキと手話で挨拶をされ、とても礼儀正しく、爽やかにふくろうの玄関を入れて来られました。

8月の誕生会は、南あわじ市立南淡中学校の郷土芸能部の方々20名に淡路島に昔から伝わる人形浄瑠璃をご披露いただきました。



▲ 学生さんと一緒に。(8月6日)

中学生とは思えないしつかりとした語り、そして三味線、人形操作。約30分の演技が終わると一斉に拍手が沸き起こりました。

その後、中学校の計らいで、演技に使った人形や三味線を実際に触らせていただきました。三味線を弾いてみたり、人形と一緒に写真を撮ったり、入所者さんはとても楽しんでいらっしやいました。

引率の先生はじめ、南淡中学校郷土芸能部のみなさん、ありがとうございます。

(介護・角村)



三味線を手にお茶目な表情の酒井さん

作業給料日



いつもおつかれさまです。

7月に入所者さんの日頃の成果、給料日が

あり、大矢施設長から手渡されました。入所者さんは作業場などで日々頑張つて製品作りを行っています。自分たちの製品が販売されることで、生きがいや新しい創作意欲に繋げることができればと思っています。



■ 廣瀬輝夫さん (85)
大正13年8月3日



お誕生日おめでとう!

■ 谷村正雄さん (83)
大正15年8月16日



■ 大鋸 實さん (90)
大正8年8月25日



今年で戦後64年目の夏を迎えます。戦争を体験した方たちの記憶を後世に残していくことが同じ過ちを繰り返さないために必要なことだと思います。今年もふくろうの郷の入所者の皆さんに当時のことを語っていただきました。

中村正一さん(91)
(ろうあ者)



昭和18年3月に「尼崎精工株式会社」へ入社しました。

仕事場は神戸でした。初め決めるとき、戦争に使う機械等を作るために尼崎精工と京都と2か所から誘いの手紙がきました。周りのみんなと相談し、「神戸の方が良い」ということで決め、健康診断を受け「良い」という結果で神戸で仕事をする事になりました。



昭和19年頃の中村さん

谷 妙子さん(76)
(ろうあ者)



私は神戸市灘区で生まれました。戦時中、兄が二人兵隊に取られ、汽車で戦地に行ってしまった後は、私、母、弟の3人で神戸に住んでいました。夜はおにぎりを二つ、朝は固いパンをみんなで分けて食べていました。いつもお腹がすいていたのを覚えています。

ある日、朝だと思って起きると、それは空襲のために遠くの街が燃えて空が明るくなっていたのでした。その時、街ではたくさん家がなくなり、人が死んだそうです。防空頭巾はいらなくなつた着物をほどこいたもので母が作ってくれました。戦時中は大きな荷物を持って逃げ回ったこともあり、電気を消して畳の下に掘った穴の中じつと隠れていたこともあります。

その工場には、日本各地から沢山のろうあ者が集まってきた。

そこでの私の仕事は爆弾の信管製造の仕事でした。パイプを切る、パイプが行ったり来たりするのを切断する担当と分かれていました。

私は力のランクでいうと3つ目。1つ目が非常に重い、2つ目は普通、3つ目は力なしに分かれていました。

午前11時50分頃にサイレンがなります。しかし、その工場にはろうあ者が多いため赤いライトが光りました。それで御飯の時間だという事がわかりました。決められた時間に合せて行動をしていました。



▲絵・相良 理氏(ろうあ者)

私はろうあ者で音は聞こえないけれど、爆弾が落ちた時は「ドーン」という振動で分かりました。戦争が終わって、元気に兄や上の弟が帰ってきた時は本当に嬉しかったです。戦後は京都府の夜久野で暮らしました。私は戦争のため、小学5年生までしか学校に通っていません。もう一度学校に行きたかったけれど、無理でした。それがとても残念なことです。

谷妙子さんはその後、「ご主人の信義」と結婚。淡路ふくろうの郷に入所されるまで、豊岡で生活されました。

昭和18年4月12日
尼崎精工工場前にて



御飯は簡単なもので、おかずは食券と引き換えです。いつも御飯の上におかずが少し乗る程度の物足りない食事でした。少しでも量が増えるように考えたものです。

工場には売店があつて、おなが空いた時に行きました。でも品数や量も少なく、又、いつも人が大勢並んでいるような所だったので、すぐ物が無くなつてしまします。閉まっている時の方が多かったです。

前田季治さん(91)
(ショート利用者)

明石にあつた工場で戦闘機の風防をつくっていました。

空襲警報が鳴ると防空壕へ避難してました。爆弾が落ちたあと工場へ戻ると1階に設置されていた大きな研磨機が2階へ続く階段まで飛ばされて巻きついていました。そのときこんな大きなものを吹き飛ばしてしまふ爆弾の爆風の恐ろしさを感じました。工場は少し修理してすぐに再開しました。工場が働いていると履物や服がなくて困っていました。

当時は食料や物品が配給されていたので酒が配られたときには自分は呑まないので酒呑みの人から靴や衣類と交換していました。

昼休みが終わり、午後1時に仕事再開。4時30分から5時に赤いライトが点滅し、サイレンが鳴ったら仕事が終わります。

午後7時に交代があり、私は夜担当もしました。その時は昼間寝て午後3時頃に御飯を食べて、6時30分に準備を始め、7時から仕事。午前12時に御飯、朝5時に家に帰るといふ勤務でした。

坂口きぬるさん(94)
(難聴)



その頃は大阪の姉宅から神戸工場に通っていました。

(中村正一著「大切な思い出」昔から今までより抜粋)

家から海の向こうの大阪が空襲で明々と燃えているのが見えました。ここら辺は空襲はなかったけれど、戦闘機が操縦士の顔が見えるくらいに低く飛んできたことがあって恐ろしかった。家の周りに疎開してきた人が大勢いました。ここら辺の人達は農家なので食べるものができていたけど、疎開していた人は農家の人より早くから起きて市場まで食料を買うため、朝から並びにいていました。

疎開していた人達は戦争が終わってから一人、また一人と大阪や神戸に帰って行きました。「酒飲み」の人は酒がないと我慢できなくて困っていたのでよく交換してあげました。ほかに近所で「くぎ煮」を作っていたお店があり空襲警報が鳴ると火を消して鍋をそのままにして避難しなければならなかった。

爆撃が終わって帰ってくる大量のほりやゴミが鍋の中に入ってしまった、食べられなくなり捨てるしかなかった。大鍋いっぱい「くぎ煮」を捨てているのを見て「もったいない」と残念に思った思い出があります。

先山君子さん(96)
(難聴)



戦中戦後は食べる物が無くてお粥の汁をすすっていたこともあった。

主人は身長が足りず、微用で明石の軍需工場で勤めていた。空気の悪いところで日長1日マスクをして働いていた。

空気の良いところで暮らしていたのに、悪い空気を吸い続けたため病気になるってしまった。淡路に帰ってきたけれど病気で戦後すぐに亡くなつてしまった。

登 鈴子さん(79)
(難聴)



小学校の校庭に「ナンキン」や「サツマイモ」を作っていました。

お弁当を持っていけた時もあったけど、だんだんと持っていけなくなりました。「戦争だからしんぼうせえ」といわれていたけど、お米が食べられなくなつてお粥をすすっていました。着るものもなくなり、ボロボロの服につきあてをして、まだその上からもつぎあてをして着ていました。シラミが体にわいている人もいて「きたない」といわれていました。石鹸も無く体を洗うことができなかった。人に言えないようなこともして食べてきました。農家の人は食べることが出来たけど、私の家は食べることに苦労しました。戦争が終わって60年過ぎて、食べることができてありがたく思います。いろいろ買えるようになって嬉しく思っています。

ユニットお出かけ(回転寿司とおやつ)



▲食べ終わって笑顔の吉田さん



▲イクラを手にする黒崎さん

今年度、月川ユニット初めての外出レクを行いました。

外出してお寿司を食べに行くことに決まり、7月30日と8月4日に行ってきました。

私が担当した4日は元氣な皆さんでしたので少し足をのばして南あわじ市の回転寿司まで行ってきました。

楽しみにしていたこともあり、店に入っすぐに「マグロ食べたいです」とおっしゃる入所者さんもいました。



いただきま〜す

皆さん魚が大好きで、特にヒラメやグレなどの自身のネタを選んでおられました。私が同席した皆さんはあつという間に食べ終えてしまわれ食後の談笑を楽しみました。別の席の皆さんはゆつくりと多くのネタを口にしておられました。

お寿司の次に30日はせんべいを、4日はドーナツを食に行き、入所者さんにはまったりとした夏の午後を楽しんでいただけたかと思えます。

各店舗では、店員の方たちの細かな気遣いや対応があり、他のお客様から席を譲っていただくなど、みなさんの思いやりの心に触れ、とてもうれしく、ありがたく思いました。



▲▼それぞれ記念撮影してきました。



午後のひととき・・・

これからも入所者皆さんの笑顔が多くみられるように頑張ってください。
(介護…神代)

淡路ふくろうの郷 自治会総選挙



平成21年度 自治会役員のみなさん

世間では衆議院総選挙も近づいています。が、「淡路ふくろうの郷自治会」では一足お先に7月23日、役員選挙を行ないました。

今年は会長の立候補者が2人いたので決選投票を行うなど、熱い展開もありました。

これからの任期期間、職員と共に明るく楽しい暮らし作りをしていきたいと思います。

ボランティアさん紹介 ③「ふくろう理髪店」

「ふくろう理髪店」は毎月、第一月曜日だけの開店です。

神戸の土屋さん、淡路島の岡田さんはみんなが困らないようにと毎回きつちりと理容師さん・美容師さんのコーディネートをしてくださいます。

「ふくろう理髪店」は淡路ふくろうの郷が開所して間もない、まだ職員がいろいろな流れを作るために試行錯誤していた頃からずっと続いています。

奥様がふくろうに入所された事がきっかけで理髪店に毎月ご協力くださる方もいらっしやいます。

様々な人と人との繋



▲ ふくろう理髪店のみなさんです。

がりだが、ひよんなことからまた繋がって、新たな関係が生まれています。

いつもみんなの優しさがたくさん集まっている「ふくろう理髪店」です。ご協力くださるみなさま、本当にありがとうございます。

(事務：森岡)

部署紹介 ③「健康看護係」



医務室の看護師です。入所の方の健康面での支援をさせていただいています。

月一回の管理医師の診察介助、専門科や眼科・歯科の診察にも同行します。

診察の際、必要なときは手話通訳や盲ろう通訳の方にもお世話になっていきます。

今年からは入所の方の健康ミニ講座や阿波踊り体操にも取り組んでいます。

淡路ふくろうの郷が開所して4年目、糖尿病が改善された方もおられ、私たちの励みになっています。

これからも淡路ふくろうの郷で安心して療養し、楽しい生活が送れるようサポートしていきたいと思っています。

医務室は山ユニットの向かい奥にあります。気軽に立ち寄ってくださいね。

(医務：八木正子)



※今月の理事エッセイは都合によりお休みさせていただきます、申し訳ございません。来月をお楽しみに。

全通研夏の集会 in 兵庫 淡路ふくろうの郷ツアー

8月8日(土)晴天!
大型バス4台、全国からの参加者 165 名(要員合わせると約 200 名)が淡路ふくろうの郷に来所されました。

詳細は来月号でご紹介します。お楽しみに!



第 1 陣が到着した時の玄関前

地域を語る

第8回 厚浜に伝わる民話

尻焼き茂平さん

むかしむかし、私たちの村に茂平さんという人がありました。

茂平さんは、あるとき、馬に薪を積んで町へ売りに行きました。そして、薪のお金をもらってお酒を飲んでいい気持ちになって「コポリ、コポリ」と馬を引いて、おばあさんの待つているお家へ帰っておりました。

大戸という山に差し掛かりました。お日さまは西の山に入りかけていました。そうすると山道に女の人が立っていました。

茂平さんは大戸の山に狸が化けて出ることを聞いていましたので、さては狸が女の人に化けてきたと思って「ねえさん、ねえさん、この馬に乗せてあげよう」と言って馬の荷鞍に乗せました。そしてすばやく荷縄で縛り付けました。

すると女の人は「放してくれ、放してくれ」と言い出したが、茂平さんは急いで女の人を乗せたまま家に帰りました。

「おばあさんや、おばあさんや、焼き火箸を持ってきておくれ」と言っておばあさんの持つてきた焼き火箸を女の背中に突きつけました。すると女の人は、すぐに狸になつてキヤーキヤーと言つて荷縄を抜けて山へ帰っていきました。

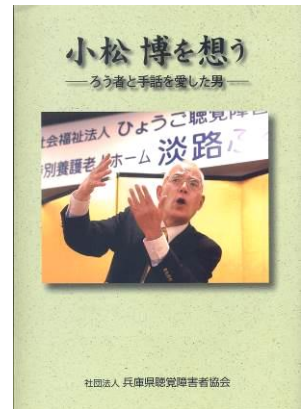
そして、明くる日、茂平さんは馬に薪を積んで町へ売りに行きました。

また、酒を飲んで馬を引いて帰っていました。大戸の山へ差し掛かりました。大きな岩の上から一匹の狸がこちらを向いて「尻焼き茂平さん今ここを通り候」大きな声で言いました。

※大戸：村中央より北にして掛かる山、南左右の谷なり。

※味地草津名郡厚浜村より。この民話は同地区、畑田實さん(故人)が保存していたものです。

淡路ふくろうの郷でもお取り扱っています。



小松博を想う
~ろう者と手話を愛した男~
定価 1,500円

(社福)ひようご聴覚障害者福祉事業協会前事務局長、小松博さんがお亡くなりになり早3年。このたび、仲間の温かい気持ちになり早3年込められた「小松博を想う」が出版になりました。無鉄砲だけど繊細。人間的魅力にあふれていた小松博さん。彼が全身全霊を注いだ淡路ふくろうの郷建設のもうひとつの物語。是非、お手に取りご覧ください。

第五回 ふくろう学習会

お待ちせ致しました！
次回のふくろう学習会の日程と講師が決定しました！



※写真

主婦と生活社
大平一枝(著)より

H21年9月19日(土) 13:30~15:30
場所:淡路ふくろうの郷 参加費 500円

講師は「京都盲ろう者ほほえみの会」元代表の梅木久代さん・好彦夫妻です。

講演のテーマは未定ですが、お二人の愛のエピソードや「ほほえみの会」設立にあたっての苦労話、京丹後市の人里離れた山奥での自給自足の生活など、たくさんお聞きしたいと思っています。

みなさん、とっても貴重なこの機会をお見逃しなく！

ふくろう喫茶よいお知らせ

ふくろう喫茶でふくろうの郷の入所者さんと楽しい時間を過ごしませんか。

※ 8月23日のふくろう喫茶は16日に変更になりました。
◆開催日時:9月20日(日)13:00~15:00

コーヒー・ココア・紅茶・
カルピスなどなど ¥200より



☆ 新刊紹介 ☆



平成20年度の「淡路ふくろうの郷 事業報告書」が完成しました。ふくろうの会計状況や生活の様子がたくさんの写真と共に紹介されています。誰もが楽しく読める仕上がりですので、是非是非、お買い求め下さい。

頒価 1,000円

平成20年度 淡路ふくろうの郷 事業報告書